

令和8年度(2026年度)

# 全国学力・学習状況調査の結果について



標茶町教育委員会

今年4月に文部科学省による全国学力・学習状況調査が実施され、過日調査結果が公表され、標茶町の調査結果をまとめましたのでお知らせします。この調査で測れるのは学力の一部分であり、学校教育の側面の一つではありますが、調査結果を今後の教育活動の改善に向けて活用していきます。

## ◆実施日

令和8年4月23日(木)

- ・中学校英語「読むこと」「書くこと」「聞くこと」は4月20日(月)～23日(木)のうち1日
- ・中学校英語「話すこと」は4月24日(金)～5月29日(金)のうち1日

## ◆調査実施児童生徒

町内の小学校6年生54名 町内の中学校3年生48名

## ◆調査の内容

### ①教科に関する調査(国語、算数・数学、英語)

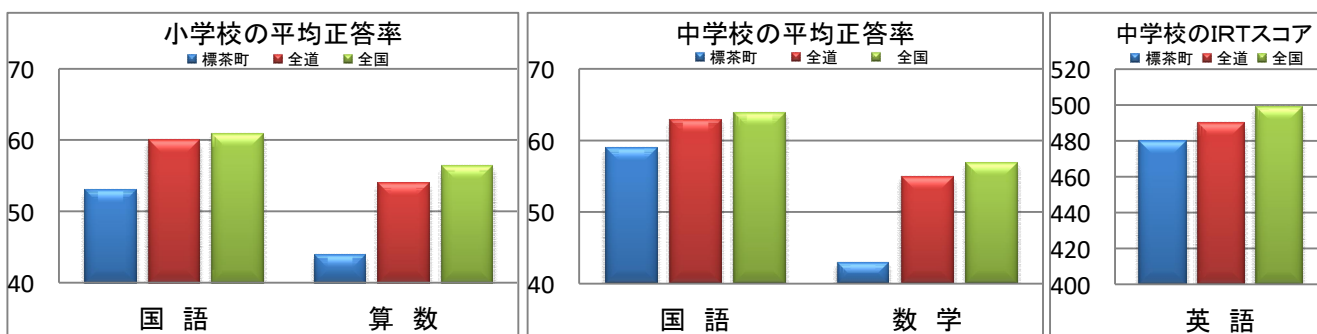
- ・身に付けておかねばならない知識・技能等、及びそれらを実生活で活用する力や問題解決能力を一体的に問う問題

### ②生活習慣や学習環境等に関する質問調査

- ・児童生徒に対する調査
- ・学校に対する調査

IRTとは、国際的な学力調査や英語資格・検定試験で採用されているテスト理論です。500を基準にした得点で表されています。  
全道は「490」、全国は「499」、標茶町は「480」が平均IRTスコアであり、全道及び全国の数値を下回っています。

## 【教科に関する調査】



### 〈小学校の状況〉

国語、算数ともに全国平均を下回る結果となりました。

領域別の結果では、国語は「話すこと・聞くこと」が全国水準に近い正答率を示しましたが、課題は「読むこと」と「言葉の特徴や使い方」です。文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることや、学年別漢字配当表にある漢字を文の中で正しく使うことに課題が見られました。

算数は、「測定」において全国平均と同等の正答率となりました。課題は「数と計算」や「データの活用」です。分数の大小関係を判断してその理由を記述することや、二次元の表から条件に合う数値を正確に読み取ることに課題が見られました。

### 〈中学校の状況〉

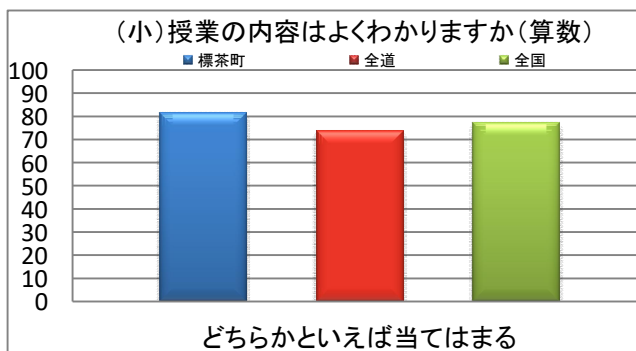
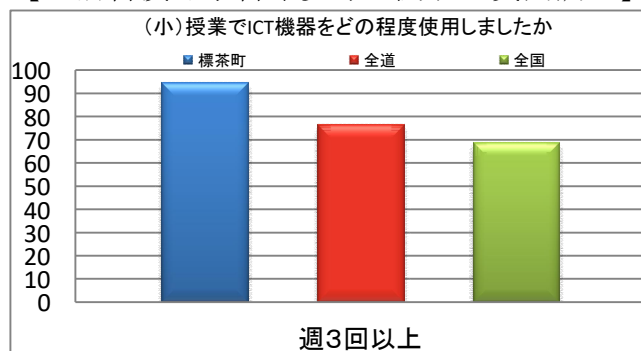
国語、数学、英語の全教科において全国平均を下回る結果となりました。

領域別での結果では、国語は「書くこと」において全国平均に近い正答率となりました。課題は「読むこと」と「情報の扱い方」で、文章の中心的部分と付加的な部分について叙述を基に捉えることや、情報と情報との関係の様々な表し方を理解使うことに課題が見られました。

数学は、全ての領域で平均を下回りました。特に「図形」における三角形の合同を用いた証明の記述や、「データの活用」における箱ひげ図から傾向を読み取り、判断の理由を説明することに大きな課題が見られました。

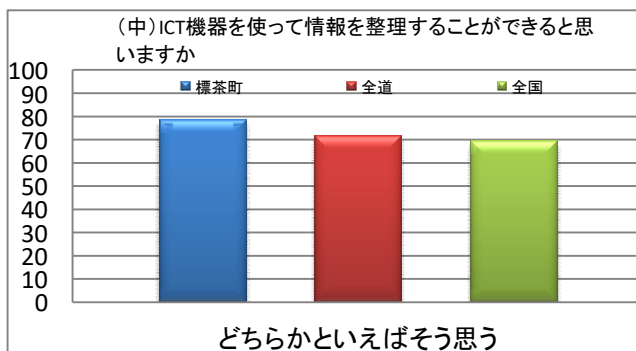
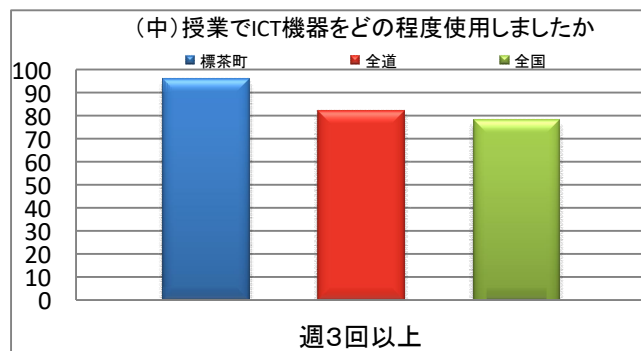
英語は、「読むこと」において全国平均を大きく上回る問題も見られましたが、全体として、事実や自分の気持ちを整理してまとまりのある英文を書くことに課題が見られました。

## 【生活習慣や学習環境等に関する質問調査】



### 〈小学校の状況〉

一人一台端末の活用が完全に定着しており、授業で週3回以上 ICT 機器を利用する児童の割合(94.5%)は、全国平均を25ポイント以上も大きく上回っております。画像や動画等の活用により「学習内容がよく分かる」と回答した割合(算数81.5%)も全国水準に近い数値であり、視覚的な情報を効果的に取り入れた学びが、児童の確かな理解を支える大きな要因となっています。



### 〈中学校の状況〉

中学校においても ICT 機器の授業利用は96.2%に達し、全国平均を大きく引き離す極めて高い活用頻度を維持しています。特に「情報の整理」や「文章作成」、「情報の収集・整理」といった具体的な活用スキルにおいて、生徒の自己評価が全国平均を軒並み大きく上回っており、ICTを自らの考えを深め、効果的に表現するための確かな手段として使いこなしている実態が顕著に表れています。

## 【今後の改善方策】

各学校においては、児童生徒一人一人の調査結果を分析し、指導計画等に適切に反映させるなど、学習指導等の改善に向けて計画的に取り組んでいきます。引き続き、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善や「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図るとともに、学習の場面等に応じた指導方法について研究を重ね、適切な指導方法を選択しながら実践してまいります。

ご家庭においては、お子様の生活リズムを整えるとともに学習時間と読書時間を確保していただきますよう、お願いいたします。

教育委員会では、引き続き、教育環境の整備に向けて各校と連携しながら、児童生徒の健やかな成長を支えてまいりますのでご理解とご協力をお願いいたします。

